

○昨年度までの研究について

研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現を目指して ～学習過程の質的改善～」

- ・「見方・考え方」を働かせた授業実践
- ・ICTの充実

○委嘱期間：3年（令和4年度～令和6年度）

○研究領域：各教科など及び教育課程全般に関わること

○研究教科：全教科

○研究主題：個別最適な学びと協働的な学びの視点を取り入れた授業実践

○研究仮説：個別最適な学びの視点を授業に取り入れることによって、子どもが本来持っている学びに向かう力を引き出すことができ、資質・能力の向上につながる。

○方向性

1年目：主に「個別最適な学び」について知り、学んだことを1つ以上授業の中で実践し、報告書にまとめる。

2年目：主に「協働的な学び」について知り、「個別最適な学び」と一体的に取り組み、報告書にまとめる。

3年目：1年目・2年目に学んだことの中から、資質・能力の育成に最適な方法で授業実践を行う。

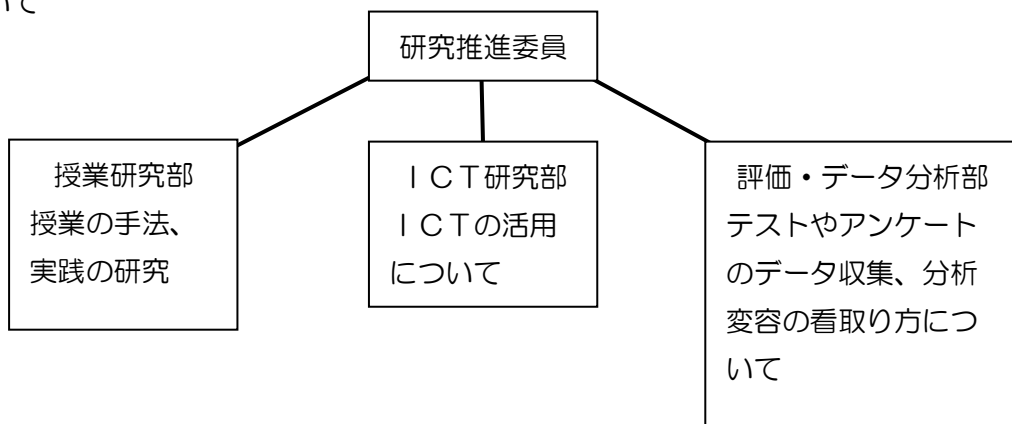
これらの実践は昨年度まで取り組んできた「見方・考え方」を踏まえた研究である。

また、ICTも十分に活用する場面が設定できる。

結果をどのように測るか

- ・県学テ・全国学テ（特にB問題）・市学テ→思考・判断・表現、知識・技能
→3教科しか測れない。本当にこれらのテストが資質・能力を測るものとなっているのか？
- ・共通の振り返りシート・自己評価シートを作り、その変容を見取る？→学びに向かう力・人間性等
- ・学習に関するアンケートの実施

○研究部会について



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

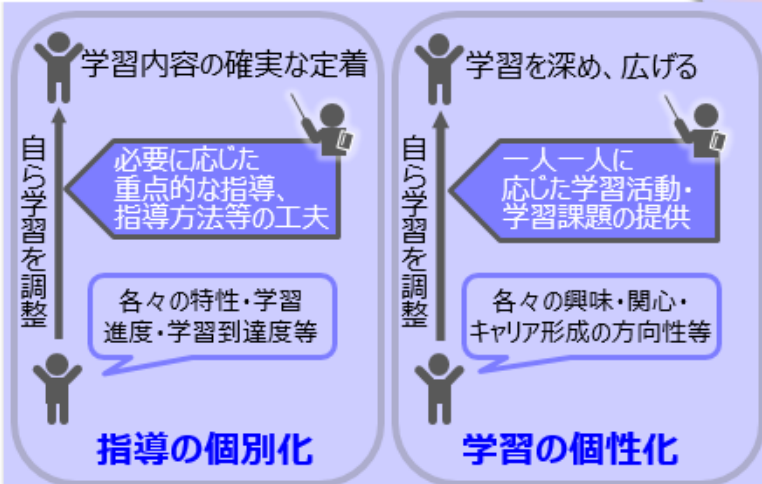
学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達の支援

授業改善

一体的に
充実

授業外の
学習の改善

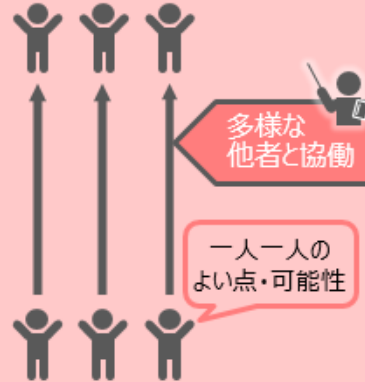
資質・能力の育成



個別最適な学び（教師視点では「個に応じた指導」）

修得主義 一人一人の学習状況に応じて学習内容を提供 一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視
の考え方を生かす

異なる考え方が組み合わせり
よりよい学びを生み出す



協働的な学び



履修主義
の考え方を生かす

これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

平成29,30年改訂
学習指導要領 前文